

2026年度未来ファンドおうみの助成基金 採択団体一覧

①びわこ市民活動応援基金（地域活性化事業）

	団体名	事業名	事業内容	助成額
1	特定非営利活動法人あそびが寺	こどもとつくるこどもの居場所『放課後自習寺』	町内の無住職寺院を活用し、経済的事情や家庭環境に関わらず誰もが無料で自分らしく過ごせるユニバーサルな『居場所・遊び場』を提供、スタッフが『大人の友達』として横並びで伴走する中、子どもたちが自ら行事の企画・運営やDIYを主導し、『子ども主体の居場所』を目指します。また、子どもの居場所不足と空き寺問題を同時に解決するモデル事業となるよう、地域に根ざした新しい温かな循環を、ここから生み出していきます。	300,000
2	チームエンパワーメント	「優しさの見える街プロジェクト」	医療・介護・福祉の専門職や当事者が中心となり、障がいの有無に関わらず誰もが支え合える「優しさの見える街」を目指して活動しています。3回目を迎える、医療的ケア児とその家族が安心して映画を楽しめる「インクルーシブシネマ」を、定番化となるよう実施するとともに、音楽ライブや専門職による健康相談ブース等を通じて支援の魅力を発信する体験型フェス「WE WILL HELP YOU」の実施を通じて、心の壁を取り払い、自然に声をかけ合える社会のモデルケースを地域と共に創り上げていきます。	300,000

①びわこ市民活動応援基金（若者応援事業）

	団体名	事業名	事業内容	助成額
3	滋賀県モバイル屋台プロジェクト	地域で新たなつながりを作ろう！モバイル屋台プロジェクト	移動式の「屋台」とおして、医療系学生が滋賀の地域の中へ自ら出向いていく活動をスタートします。日常のふとした場所に屋台を広げ、年齢や立場を問わず誰もが「ふらっと」立ち寄れる、温かな交流の場をつくります。一歩ずつ「顔の見える関係」を育み、会話からこぼれる困りごとやニーズに寄り添い、必要に応じて地域の医療・福祉資源へゆるやかにつなげ、誰もが自分らしく健やかに暮らせる(Well-being)土台づくりを目指し、地域の中に新しい安心と支え合いのきっかけを広げていきます。	200,000
4	浅井湯田地域づくり協議会フレンドリー部会	湯田っ子合宿	この事業は、かつて自分たちが地域の温かさを学び、自立心を育んだ大切な体験「通学合宿」を、今の小学生たちにも届けたい！という想いから、新たに「湯田っ子合宿」として企画しました。この事業の主役は、湯田の子どもたち。共同生活を通じて自主性を養うのはもちろん、地域の大人たちと触れ合うことで、地域愛を育み、将来のUターン定住や地域の活性化につながるポジティブなサイクルを生み出すことを目指します。	170,000

②びわ湖の日基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
5	ぼてじゃこトラス	30周年記念誌作成：淡水魚保全と会運営ノウハウの次世代への継承	県内の絶滅危惧種の淡水魚の野生復帰に向けた調査・研究や、大人と子どもが生き物と触れ合う自然体験教室を軸に活動しています。30周年を迎え、これまでの集大成として記念誌を作成するなかで、30年間「市民活動」として継続させてきた運営の仕組みや秘訣も公開します。この記念誌を通じて、地域の自然を守る輪が広がることはもちろん、他の市民活動団体の運営を支える一助となることを目指します。	300,000

6	森と湖を未来へつなぐ会	琵琶湖水系のための石積みWSと地域の自然のアーカイブプロジェクト	地域の宝である棚田を守るため、自分たちの手で修繕する「石積みワークショップ」と、その魅力を音声で発信する「ポッドキャスト配信」をはじめます。ワークショップでは、体験の楽しさを大切に、また参加したくなるような継続的な活動を目指します。また、「ポッドキャスト」は、ワークショップのライブ配信はもちろん、地域のキーパーソンをゲストにお迎えし、土地に伝わる自然や文化をお聞きするなど、地域に根ざしながら、活動をアップデートしていきます。	300,000
7	TANAKAMIこども環境クラブ	び・わ・こ まるごとプロジェクトpart2	「流域から琵琶湖を守る次世代の育成」を、柱とした環境学習プログラムの構築を目指すなかで、今回は小中高生を対象に、カヌーやSUPを用いた水質調査、ヨシ帯の観察など、琵琶湖に直接触れる多彩な体験を提供します。地域住民や専門家、大学とも連携し、琵琶湖の自然・文化・産業を自分ごととして捉える担い手を育み、持続可能な地域づくりに寄与していく取り組みを目指します。	220,000

③積水化成品基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
8	特定非営利活動法人 甲賀の環境・里山元気会	元気な里山になるよう山の整備をして皆で楽しもう（里山整備）	22年間にわたり里山の復元活動を大切に続けてきました。今年度はボランティア活動の定義を「作業」から「参加型イベント」へと再構築します。ご家族やリピーターの皆さんが、里山の自然を五感で楽しむイベントとして位置づけ、単なる作業やお手伝いととまらない、共に里山を創り上げる「里山づくり」とします。長年培ってきた知恵と技術を手渡しながら、持続可能な里山保全を目指します。	200,000

④笑顔あふれるコープしが基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
9	特定非営利活動法人ふれ愛パーク	「輝け、今の自分！」創る事を自信に繋げる、みんなの居場所作り	知的障害を持つ方々が、休日に自分らしく過ごせる場所を広げたい。そんな想いから、ホームの利用者（知的障害）に、五感をフル活用して自由に表現できる「創作の場」を提供します。安心して本来の感性を發揮し、表現することで自尊心を育むと同時に、支えるスタッフにとっても、自身の居場所として深く関わられるような活動を目指します。この活動を地域に広く周知し、おっつは、誰もが心地よく暮らせる住みよいまちづくりへとつなげていきます。	100,000
10	和っ家-WAcKA-	夜泣きカフェ～眠れない夜に、ひとりにしない居場所づくり～	乳幼児期の子育て、特に「夜泣き」が続く夜は、心細さや孤立感を一人で抱え込んでしまいがち。そんな既存の産後ケア事業だけでは届きにくい、「眠れない夜」の不安に寄り添う活動です。対面とオンラインを組み合わせ、時には専門家のアドバイスも受けられるような場を目指します。ワンオペ育児や初めての育児で不安な夜を過ごすお母さんが、ホッと一息つける環境を整え、孤立を防ぎ、心にゆとりを持って育児に向き合える社会を広げていきます。	100,000
11	そっこん/ぞっこん/山内	高齢者の知恵と技を活用した持続可能なモノづくり事業	地域に魅せられたメンバーが、高齢者と共にあゆむ「農業を通じた居場所づくり」をスタートします。農作業を通して「昔ながらの知恵や技」を受け、気軽に立ち寄れる「井戸端茶話会」では、顔と顔が見えるアナログな交流を通して、一人暮らしの不安を解消し、温かい関係を築きます。将来的には、アドバイスをもとに育てた野菜の販売や加工品づくりにも挑戦し、地域全体が元気になれる活動を目指します。	100,000

⑤ナカザワNEOフレンドシップ基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
12	もりやまこども日本語学習クラブ	日本語指導が必要な外国にルーツを持つこども達の学習支援事業	日本語指導を必要とする外国ルーツの子どもたち。学校での限られた支援だけでは、進学や就職など未来の選択肢を広げるのが難しい現状があり、そんな子どもたちが日本社会で自分らしく歩んでいけるよう、地域のボランティアさんと共に学習支援を展開しています。新たに地域社会とつながる「体験型学習」にも力を入れ、地域と交流することで言葉の壁を越え、多様な人々が共に学び、働き、笑い合える「共生社会」の実現の一步を守山から目指していきます。	100,000

⑥げんさん食育NPO基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
13	一般社団法人このゆびとまれ	障がいのある方が「食」を通して社会力を培い、地域貢献できる環境づくり	「食育」を通して障がいのあるなしに関わらず、誰もが自分らしく地域で暮らせる社会へ。今年度は、利用者一人ひとりが「より主体的に、目的意識を持って」取り組むことを大切にします。自分たちが育てたものを販売したり、地域の方々と一緒に料理を楽しんだりする中で、自らの力を発揮し、自信と達成感を育み、食を通じた豊かな出会いを積み重ね、誰もが「あたりまえの生活」を共に送れる、温かな地域づくりを目指します。	100,000

⑦湖国文学活動応援むらさき基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
14	音楽劇団Ryu陣	オリジナルの音楽劇で地域のお話を知ってもらおう!	活字離れが進むなか、あえて「オリジナルの音楽劇」で、文学が持つ豊かな言葉やストーリーの力をダイレクトに心へと届けます。地域に眠る歴史や文化を「独自の脚本」として文学的に再構築し、生の舞台を通して、郷土への深い関心と文学に親しむ新しい裾野を広げていきます。演じる人、観る人が共に心を動かされ、世代を超えて地域の知性を次世代へつなぐ交流拠点となることを目指します。	100,000

⑨奥田工務店子育て応援基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
15	一般社団法人やさしいごー	野菜をテーマにした移動式子ども食堂	既存の施設では手が届きにくい山間部や交通不便な地域の子どもたちに、こちらから出向いて支援を届ける「移動式子ども食堂」事業。直接足を運び、地元農家から仕入れた新鮮な野菜をふんだんに使った食事を提供します。単なる食事支援に留まらず、地産地消の促進や地域住民のボランティア参画を促すことで、社会全体で子どもたちの心身の成長を支える温かい地域コミュニティの創造を目指します。	100,000
16	社会福祉法人日野友愛会	誉の松こども食堂	高齢者施設としての機能を活かし、施設内の学童保育を拠点に、地域の子どもたちへ「食」と「交流」を届けます。学童利用者だけでなく、施設近隣の小学生希望者を「地域の子ども」として迎え入れ、こども食堂を通じた居場所づくりと子どもたちの町への愛着を育むことを目指します。また、高齢者と自然に触れ合える機会を創出し、食を通じた多世代交流によって、地域コミュニティの活力へとつないでいきます。	100,000

17	NPO法人CASN	食と学びのトワイライトステイ	運営してきた子ども食堂を基盤に、様々な家庭環境を持つ子どもたちへ、心安らぐ「食と居場所」、そして「学びの場」を提供します。皆で食卓を囲む楽しさや、集中して学習に取り組むことで、自分の将来に自信を持てるよう伴走支援を行うとともに、短時間の預かり機能を備えることで、保護者のレスパイトを支え、家庭全体の持続可能な環境づくりを後押しします。地域の方々と手を取り、「子どもを真ん中に置いた」優しい地域づくりを目指します。	100,000
18	社会福祉法人グローながはまこども食堂	社会福祉法人グローながはまこども食堂	老人ホームという福祉拠点を活かし、地域住民の居場所として「子ども食堂」を運営し、学区の枠を超えて子どもたちを受け入れることで、広い範囲での交流を生み出すとともに、施設入所者との多世代交流の場としても機能しています。調理は地元のボランティア、また、社会福祉協議会との連携を深めることで、地域全体の福祉意識とボランティア精神の活性化も目指します。子ども食堂から、地域活性化と福祉意識の向上へつなげてきます。	100,000
19	のうちえん×オムスピの会	稲作×四季×口育食育で子どもの生きる力を育む事業	子どもたちが大自然の中で「自分で考え、やってみる」体験を通じて、生きる力の土台を育む事業です。最大の強みは、野洲市で200年続く「中道農園」との強力なパートナーシップ。豊かな水田を舞台に、稲作や四季の手仕事、野外遊びを通して、子どもたちの身体感覚や探究心、そして非認知能力を引き出します。多様な世代が混ざり合う開放的なフィールドで、子どもたちが自分らしく成長できる、持続可能な地域コミュニティの創造を目指します。	100,000

⑩滋環協こども環境基金

	団体名	事業名	事業内容	助成額
20	しがローカルSDGs研究会	小学生のプラごみ研究会「Rキッズ」推進事業	次代を担う子どもたちがプラスチックごみ問題を「自分事」として捉え、仲間と共に解決策を考える実践型の環境教育事業。単なる知識の習得だけでなく、想像力や発信力、そして共に創り出す「協創力」を育むことを目的としています。保護者や周囲の大人の行動変容も促しながら、子どもたちの主体的な行動が地域全体に波及していくことを目指し、持続可能な社会を支えるリーダーを地域の手で大切に育てていきます。	100,000